

井崎市政の真実 改革の方向は…①

命の軽視は許されない!

15才以下人口一人当たりの
夜間救急医療への負担金推移

H26年度	239円
H27年度	258円
H28年度	288円
H29年度	314円



流山市議会議員

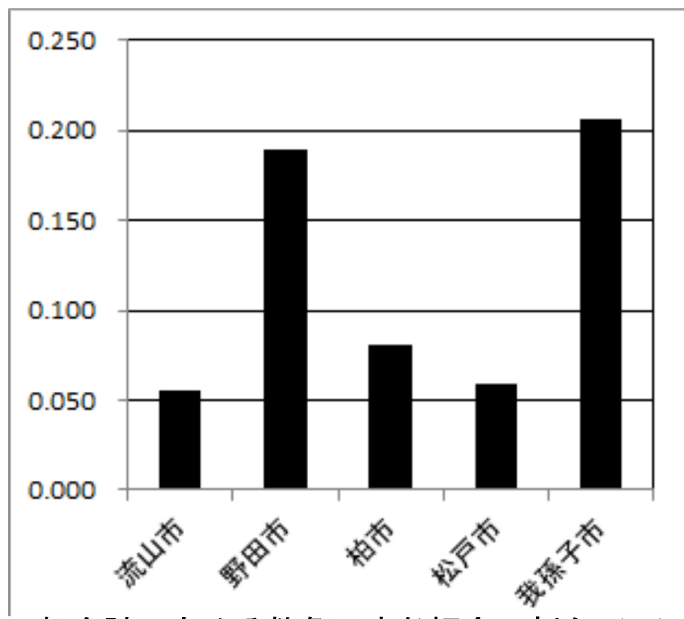
小田桐たかし

9月25日、市議会委員会室。「外国人や若い女性2、3千人集まれば、市長を支える市職員の子どもが救急で受診し、医師不足で重篤になってもいいのか。どちらが重要か」小田桐市議の声が響きました。基本的なことを聞かねばならないほど今、小児救急は崩壊寸前です。

観光による税収増の金額は明確にできなくても、井崎市長は、「命を守ることは最優先。だが観光も必要不可欠」「経済が回らなければ福祉も医療もできない」と持論を展開し、「対応してきた」と居直りました。

しかし実態は、「母になるなら、流山市。」と夫婦共働きの子育て世代をターゲットに誘致活動を進めるも、5日中1日は、小児救急は確保できず、残りは、H26年、小児救急が1つの医療機関に集中。過重な負担がかさむ中、3月末、複数の小児科医が救急の現場を離れ、市担当課長は「継続に危機を感じる」と答弁するほどです。

一方、市長が熱をあげる観光事業では、観光冊子を7千部から2万部に拡大。



一般会計に占める救急医療負担金の割合 (%)
我孫子市の4分の1、東葛では最低です。

9月25日、市議会委員会室。「外国人や若い女性2、3千人集まれば、市長を支える市職員の子どもが救急で受診し、医師不足で重篤になってもいいのか。どちらが重要か」小田桐市議の声が響きました。基本的なことを聞かねばならないほど今、小児救急は崩壊寸前です。

観光による税収増の金額は明確にできなくても、井崎市長は、「命を守ることは最優先。だが観光も必要不可欠」「経済が回らなければ福祉も医療もできない」と持論を展開し、「対応してきた」と居直りました。

しかし実態は、「母になるなら、流山市。」と夫婦共働きの子育て世代をターゲットに誘致活動を進めるも、5日中1日は、小児救急は確保できず、残りは、H26年、小児救急が1つの医療機関に集中。過重な負担がかさむ中、3月末、複数の小児科医が救急の現場を離れ、市担当課長は「継続に危機を感じる」と答弁するほどです。

一方、市長が熱をあげる観光事業では、観光冊子を7千部から2万部に拡大。

10月2日閉会する流山第3回定例議会。H29年度における流山市の各会計決算が審査されました。小田桐たかし市議は、命の軽視という井崎市政の不都合な真実と改革の方向が明らかになったと指摘します。

「命を守ることは最優先だが、観光も必要不可欠」市長答弁

9月25日、市議会委員会室。「外国人や若い女性2、3千人集まれば、市長を支える市職員の子どもが救急で受診し、医師不足で重篤になってもいいのか。どちらが重要か」小田桐市議の声が響きました。基本的なことを聞かねばならないほど今、小児救急は崩壊寸前です。

観光による税収増の金額は明確にできなくても、井崎市長は、「命を守ることは最優先。だが観光も必要不可欠」「経済が回らなければ福祉も医療もできない」と持論を展開し、「対応してきた」と居直りました。

しかし実態は、「母になるなら、流山市。」と夫婦共働きの子育て世代をターゲットに誘致活動を進めるも、5日中1日は、小児救急は確保できず、残りは、H26年、小児救急が1つの医療機関に集中。過重な負担がかさむ中、3月末、複数の小児科医が救急の現場を離れ、市担当課長は「継続に危機を感じる」と答弁するほどです。

一方、市長が熱をあげる観光事業では、観光冊子を7千部から2万部に拡大。